

**第25回 中央卸売市場移転予定地における土壤汚染対策等に関する専門家会議  
議事概要**

日時：令和6年2月19日（月）14:00～14:30  
場所：姫路市中央卸売市場 管理棟2階 大会議室  
参加者：委員：平田健正（座長）、中島 誠、藤森一男、田原直樹  
保高徹生（web参加）  
事務局・関係局：農林水産環境局中央卸売市場  
地下水調査機関：国際航業 株式会社

本会議の議事概要は次のとおりである。

**1. 第25回専門家会議の概要**

今回（第25回）の専門家会議は、『総合的な安全対策』（別紙1）を実施するため、姫路市白浜町内の中央卸売市場（以下「対象地」という。）における地下水位・ベンゼンの地下水濃度の調査結果を確認し、評価することを目的として開催した。

確認した内容は以下のとおりである（確認した内容の詳細については、第25回専門家会議配布資料を参照のこと）。

**2. 資料1（中央卸売市場における地下水調査業務委託）について**

前回（第24回）の専門家会議にて、新市場竣工後の水質モニタリング及び必要に応じた揚水対策等の具体的な内容については、対象地において豊水期と渇水期に各1回の調査を2年間（2023年度・2024年度）実施し、その結果を見たうえで判断することとしている。

今回の専門家会議では、新市場竣工後（2023年度）の豊水期・渇水期の調査結果を確認し、評価した。

**（1）地下水位について**

豊水期（7月21日）・渇水期（12月22日）に、対象地内の観測井戸計18地点において、地下水位一斉測定を実施した。

- ① 地下水の流れは、大局的には北西から南東方向であり、これまで（土壤汚染対策実施前、新市場建設工事前、新市場建設工事中）と同様であることを確認した。
- ② ベンゼンの地下水基準を超過した地点から、卸売場棟範囲へ向かう地下水の流れは確認されなかった。
- ③ 地表面が建物やアスファルト等で被覆されたことにより、若干地下水位が下がった場所や、地下水位の勾配がやや緩慢となっている場所が認められた。
- ④ 地表面が建物やアスファルト等で被覆されたことによる地下水流れ方向への影響は、特に見られなかった。

**（2）ベンゼンの地下水濃度について**

豊水期（7月20日～21日）・渇水期（12月21日～22日）に、対象地内の観測井戸計15地点において、地下水試料を採取し、ベンゼンの地下水濃度の分析を行った（15検

体)。

- ① 過年度の調査結果と同様に、豊水期に比べ渇水期の方が基準超過井戸数は多い。
- ② 土壌汚染対策後の5年間の調査結果からは、急激な濃度上昇の傾向は見受けられなかった。また、全体的には濃度が緩やかに低下していると見受けられる。
- ③ J7-7とJ7-7sの2地点については、他の地点とは異なり、これまでと同様に比較的浅い部分の地下水に残るベンゼンの影響を受けた値となっていると考えられる。
- ④ L12-5については、豊水期と渇水期の差が小さくなっている。
- ⑤ 第17回専門家会議において、土壌汚染対策が適切に実施され、基準超過土壌の浄化は完了したと判断しており、対象地におけるベンゼンは、現在、地下水中のみに残存している状況であると判断される。

### (3) 地下水調査結果について(まとめ)

地下水位の調査結果からは、地下水の流れ方向について変化は見られなかった。また、ベンゼンの地下水濃度の調査結果からは、これまでと同様に地下水中にベンゼンが残っているものの、急激な濃度上昇の傾向は見られず、低減傾向の落ち着いた値となっている。

来年度も引き続き豊水期と渇水期に各1回の調査を実施し、その結果を見たうえで、今後の水質モニタリングについて判断することを確認した。

来年度の豊水期の調査結果は専門家委員へ報告し、内容の確認を行った後に、姫路市ホームページに掲載する。

次回の専門家会議は、来年度の渇水期の調査結果が出た後に開催する。ただし、それまでの間に専門家委員が必要と判断する時があれば会議を開催する。

以上